

菊川西中だより

校長室の窓

「三学期は『なごり』 を惜しむ時」

～なごりは後ろ向きじゃない～



平成28年度も残り2ヶ月になりました。三学期は「旅立ちの時」「別れの時」です。そして、忘れてはならないのが「なごりを惜しむ時」だと思っています。そして「なごりを惜しむ」事は決して後ろ向きの姿勢じゃないと思うのです。

私は今年、教員になって36年目を迎えますが、学級担任は中学で17回やらせて頂きました。

ある中学校で2年生の担任をしたときの学級納め会です。「先生、1年間ありがとうございました。これ僕たちの気持ちです。」と代表の生徒が私に封筒のような包みを渡してくれました。「図書券です」「へー、ありがとう」とすると「先生、あけてよ!」誰かが言います。私が包みを開けてみると図書券ではなく「ビール券」が1ダース分入っていました。「おー、ありがとう。みんな、先生の好きなものよく知っているじゃないか!早速今夜飲もうかな。」一同大爆笑です。そういえば、一週間くらいの間、教室の子どもたちが空き缶のようなものを回していました。きっとお小遣いを出し合っでビール券を買ったのですね。和やかな雰囲気の中、学級納め会が終わりました。**(このクラスは本年度4月号に掲載した「一年生の学級納め会で泣きながら合唱曲を歌ったクラス」と同じ学校の同じ年代のクラスです。もちろん2年生になる時クラス替えをしていますのでメンバーは違います!!)**

また、別の中学校で3年生を担当したときです。卒業式後、学級委員が私のところへ来て「先生、明日の土曜日、お昼に学校に来てください。」と言います。「なにー、お礼参りじゃないだろうな。」と冗談を言いました。**(荒れる中学校がたぐさんあった時代の「荒れた学校」だったので、まんざら100%冗談と言えないのが悲しいことですが……)**とにかく、次の土曜日に学校に行ってみると、「教室へ来てください。」と学級委員の生徒が案内してくれます。「学年主任の〇〇先生に校舎を開けてもらいました。」教室に行ってみてビックリです。教室の机がパーティ会場ふうにセットされており、お菓子和飲み物が置かれています。『みんなで午前中に準備したな……!?!』と思いました。みんなでお菓子を食ったり、レクレーションしたりして楽しいひと時を過ごした後、いよいよ閉会です。クラスの中でも一番問題を起こしたHくんがお礼の言葉を言うようです!!「昨日僕たちは卒業しました。ぼくたちの3年2組がおわりました。先生は「やっとこいつらと別れられる」と思っているかもしれませんが、僕たちは先生のクラスで1年間過ごせてとても幸せでした。……」のどの奥に熱いものがこみ上げてきます。このときもらった手紙は今でも大切にしまっています。

3学期は「まとめの時」「別れの時」「旅立ちの時」であるとともに「なごりを惜しむ時」でもあります。小学校は6年間、中学・高校は3年間です。私たち教師にとっても修了式・卒業式が終わった日、「一年間、楽しかったな。もうこの子達ともお別れか。」と一年間のなごりを惜しみます。その積み重ねが、先生たちと子どもたちの中に「成長」として蓄積されていきます。

とうとう、3年生の子ども達との別れの日が後1ヶ月と少しに迫りました。「思い出一杯の楽しい中学校3年間だったな」「このみんなともう少し一緒に居たいな」「もう二度と会うことも無い友達もいるかも」……。子ども達一人ひとりに様々な「なごり」が存在しています。教室、グラウンド、体育館のバスケットゴール……。そして「4月から始まる新しい人生も大切に過ごそう。」という気持ちが湧いてくるからです。「なごりは未来の希望の裏返し!!」と思っています。

(文責 校長)